

令和5年度 学校だより 3月号

2月29日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 前島 潤

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子

1年の終わりに向けて

学校長 前島 潤

3年生に生き物探し名人がいます。一緒に裏庭や農園を歩くと、どこに何がいたか詳細に話してくれます。生き物の気配を捉える感覚が鋭いのですが、それよりも、今までの生き物探しの経験が知識となって蓄積されているので、「この環境にはこれがあるはず」という推測のもとに探すことができるのです。生きて働く知識は、与えられるものではなく、自ら獲得するものであることをこの子の姿から実感しました。もうすぐ「啓蟄」。生き物探し名人が活躍する季節がやって来ます。

5月の学校だよりに載せた文章です。

今年度のスタートにあたって、子どもたちには、「つながり」を大切にしようと話しました。子どもと子ども。子どもと教職員。子どもと地域。コロナ禍でなかなか人と人がつながる活動ができませんでした。その「つながり」を取り戻し、強める一年です。

さて、この一年、「つながり」は強まったのでしょうか。その答えは、次の2枚の写真に表れていると思います。



左は竹之丸保育園が交流のために来校した時の1年生と園児の姿です。右は、縦割りペアで行った「やまリンピック」を終えて教室に帰る6年生と1年生の姿です。どちらの姿にも共通していることがあります。それは、手をつないでいることです。それも自然と。きっと無意識にだと思えます。来年度に1年生になる園児の手を1年生がつなぎ、その1年生の手を6年生がつないでいる。私はその姿を見ることができて本当にうれしいです。「縦割り活動」「地域の皆様との交流」「図書・農園ボランティアさんとの交流」など、「つながり」を大切にする学びや活動から、子どもたちは、人とつながるよさ、大切さを実感したのだと思えます。

世の中、何が起るかわかりませんし、一人では解決できないこともたくさんあります。子どもたちは、これから真の自立に向かっていく過程で、そしてその後もそれらの壁にぶつかっていきます。その時に必要となる力の一つが「人とつながり協働して問題を解決する力」だと思えます。

1年のまとめとなるこの時期に、共に手を取る子どもたちの姿を見ることができるとは、学校の教育活動にご理解とご支援をいただいている保護者の皆様、地域の皆様、そして日々子どもたちと向き合っている学校の職員たちのおかげです。校長として感謝申し上げます。ありがとうございました。

3月19日。この1年間、学校のリーダーとして力を発揮し続けた6年生50名が本校を卒業します。修学旅行、体育でのサッカー、国会見学など、一緒の時間を過ごしてきた6年生の子どもたちから伝わってくるのは、「よい仲間」であることです。6年間で培われてきた「きずな」の強さを感じます。

昨日開催された「6年生ありがとう集会」に続いて、これから、「お別れなかよし給食」、そして、「6年生を送る会」が行われます。各学年が作った卒業を祝う飾りも校内に掲示されています。全校のみんなで、これまでの6年生の学校を大切に思う行いに感謝しながら、卒業までの日々を大切に過ごしていきます。



6年学年目標の掲示物